



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート

コード番号 3850 URL <http://www.intra-mart.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山義人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 鈴木誠

四半期報告書提出予定日 平成28年1月29日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 03-5549-2823

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	3,705	25.6	220	—	220	—	147	—
27年3月期第3四半期	2,949	△2.0	△51	—	△42	—	△27	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 120百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 △49百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	29.69	—
27年3月期第3四半期	△5.48	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	4,276	2,812	65.4	564.60
27年3月期	4,189	2,691	63.3	535.16

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 2,797百万円 27年3月期 2,651百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	6.00	6.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	5,000	12.9	350	55.6	350	310.6	200	—	40.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	4,955,000 株	27年3月期	4,955,000 株
28年3月期3Q	— 株	27年3月期	— 株
28年3月期3Q	4,955,000 株	27年3月期3Q	4,955,000 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信開示時点において、四半期財務諸表に対するレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府の財政・金融政策の効果により円安が継続する中、個人消費は低調に推移したものの、企業収益や雇用情勢に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調が続きました。

一方、原油価格下落や中国を中心としたアジア各国の景気減速など、世界経済の下振れが懸念されており、景気の先行きは不透明な状況となっております。

情報産業分野においては、クラウドコンピューティングやSaaSといった新規分野の拡大により、Webシステムの重要性は一層高まっており、企業の設備投資については大企業を中心に改善の兆しが現れているものの、全般的なコスト削減が求められ、依然として厳しい状況が続いております。

このような情勢のもと、当社グループは、「①国内市場における確固たるプレゼンスの確立とグローバル展開の加速、②ビジネス中枢分野及びグローバルで通用するソリューションへのレベルアップ、③サービス事業の全体レベルアップと持続的な成長基盤の確立、④グループ経営のレベルアップと人材育成」を当期の重点方針として掲げ、業績の向上に努めてまいりました。

具体的には、「国内市場における確固たるプレゼンスの確立とグローバル展開の加速」として、BPMソリューションによる業務効率化を積極的に進めるとともに、クラウド上で外部公開されているWeb APIや独自で作成したAPIなどをつなぎ合わせながらノンコーディングの業務アプリケーション開発が可能となる、システム基盤製品「intra-mart Accel Platform」のアップデート版をリリースしました。

「ビジネス中枢分野及びグローバルで通用するソリューションへのレベルアップ」としては、日本マイクロソフト社が提供する『Microsoft® Office 365』と当社BPMソリューションとの連携機能を追加し、日本マイクロソフト社のクラウドサービスである「Microsoft Azure」での動作を可能にしました。これによって当社製品とSharePointOnlineがシームレスにつながることによって、一気通貫の業務処理と大幅な効率化、統制強化が可能となりました。

また、成長するIoTマーケットに向けた展開を強力に推進するため、予防保全分野で数多くの実績を有するクオリカ社の設備保全アプリケーション「CareQube」について、当社基盤に対応した新バージョンをリリースすることで合意しました。

この結果、当社グループの平成28年3月期第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高3,705,519千円（前年同四半期比25.6%増）、営業利益220,276千円（前年同四半期 営業損失51,808千円）、経常利益220,440千円（前年同四半期 経常損失42,167千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益147,091千円（前年同四半期親会社株主に帰属する四半期純損失27,177千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### ① パッケージ事業

「intra-mart」は、全国の特約店パートナーを通じて販売しており、従来のワークフローから業務プロセス改善、基幹領域へシフトした基盤製品の上位モデルの販売を中心に、文書管理などの新基盤に対応したアプリケーション分野でも受注が続き、一般的に堅調に推移しました。

この結果、売上高は1,928,888千円（前年同四半期比17.0%増）となりました。

#### ② サービス事業

「intra-mart」を利用したシステム開発やコンサルティングなどの周辺サービスは、子会社での受注に遅れが見られるものの、金融系の継続案件やクラウド関連のSI案件、パッケージ製品の受注の伸びに伴うコンサルティングサービスの伸長などにより、全般に好調に推移しました。

この結果、売上高は1,776,631千円（前年同四半期比36.7%増）となりました。

(当社グループの四半期業績の特性について)

当社グループのパッケージ事業及びサービス事業（コンサルティング、システム開発等）は、一般企業を対象としており、事業年度を4月から3月までと定めている企業が多いため、システムの導入・検収が年度の節目である9月及び3月に集中する傾向があります。サービス事業の一部の売上高の計上基準については、工事進行基準を適用しておりますが、売上高の大半が工事完成基準（検収基準）である当社グループの業績にも季節的変動があり、売上高、利益とも第2、4四半期に集中する傾向があります。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金が増加したことにより、4,276,851千円となり、前連結会計年度末に比べ87,781千円、2.1%増加となりました。

②負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は、パッケージ事業の製品保守の未経過分である前受金が増加したものの、法人税等の支払に伴い流動負債が減少したことにより、1,464,564千円となり、前連結会計年度末に比べ33,156千円、2.2%減少となりました。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、四半期純利益の計上により、2,812,287千円となり、前連結会計年度末に比べ120,937千円、4.5%増加となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

我が国の経済は、政府の経済政策等により、企業の設備投資の回復が期待され、景気は回復基調で推移していくものと思われまふ。その中で情報産業分野は、クラウドコンピューティングやSaaS等の新たな技術分野での展開を中心として、今まで以上に投資対効果の高いサービスが求められ、引き続き予断を許さない状況が続くものと思われまふ。

このような状況のもと、当社グループは引き続きBPM等の業務効率化、EUCの促進、SaaS・クラウド等の統合的Webソリューションを提供するため、継続的な製品開発やソリューションの開発を積極的に取り組んでまいりまふ。

また、短納期・低コストといった市場動向は続くと思われまふが、グループ全体で付加価値の高いソリューションの提供やサービスレベルの向上を実現することにより、エンタープライズ領域への事業領域の拡大を図りまふ。

なお、サービス事業において、子会社の受注に遅れが見られるものの、パッケージ事業においては、基盤製品の上位モデルの販売を中心に堅調に推移しており、サービス事業においても既存案件の拡大やクラウド分野のサービスが堅調に推移するものと見込まれるため、業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（企業結合に関する会計基準等の適用）

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）等を当第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,832,521	2,100,859
売掛金	839,667	716,071
たな卸資産	116,546	170,458
繰延税金資産	36,603	36,498
その他	114,317	126,276
流動資産合計	2,939,656	3,150,163
固定資産		
有形固定資産		
建物	85,459	93,431
減価償却累計額	△17,245	△22,325
建物(純額)	68,214	71,106
工具、器具及び備品	93,864	99,676
減価償却累計額	△54,134	△62,515
工具、器具及び備品(純額)	39,730	37,160
有形固定資産合計	107,944	108,267
無形固定資産		
ソフトウェア	800,125	773,315
ソフトウェア仮勘定	150,318	54,137
その他	72	72
無形固定資産合計	950,516	827,526
投資その他の資産		
敷金及び保証金	120,280	109,203
繰延税金資産	70,601	81,636
その他	70	54
投資その他の資産合計	190,952	190,894
固定資産合計	1,249,413	1,126,688
資産合計	4,189,070	4,276,851

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	216,800	198,249
未払法人税等	113,927	53,097
前受金	667,713	783,802
賞与引当金	78,075	20,510
その他	214,311	171,449
流動負債合計	1,290,827	1,227,110
固定負債		
退職給付に係る負債	178,140	204,958
資産除去債務	28,752	32,495
固定負債合計	206,892	237,454
負債合計	1,497,720	1,464,564
純資産の部		
株主資本		
資本金	738,756	738,756
資本剰余金	668,756	668,756
利益剰余金	1,203,487	1,350,578
株主資本合計	2,610,999	2,758,091
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	40,697	39,482
その他の包括利益累計額合計	40,697	39,482
非支配株主持分	39,653	14,714
純資産合計	2,691,349	2,812,287
負債純資産合計	4,189,070	4,276,851

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	2,949,185	3,705,519
売上原価	1,903,900	2,330,198
売上総利益	1,045,285	1,375,321
販売費及び一般管理費	1,097,093	1,155,045
営業利益又は営業損失(△)	△51,808	220,276
営業外収益		
受取利息	137	57
協賛金収入	3,700	4,480
補助金収入	4,787	-
その他	1,068	231
営業外収益合計	9,693	4,768
営業外費用		
為替差損	-	4,365
固定資産除却損	52	238
営業外費用合計	52	4,604
経常利益又は経常損失(△)	△42,167	220,440
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△42,167	220,440
法人税等	11,557	97,477
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△53,725	122,962
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△27,177	147,091
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△26,548	△24,128
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,135	△2,025
その他の包括利益合計	4,135	△2,025
四半期包括利益	△49,589	120,937
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△24,695	145,876
非支配株主に係る四半期包括利益	△24,894	△24,938



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	パッケージ事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,649,269	1,299,915	2,949,185
セグメント間の内部売上高又は振替高	23,885	41,324	65,209
計	1,673,154	1,341,239	3,014,394
セグメント利益又は損失(△)	372,440	△145,170	227,269

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	227,269
セグメント間取引消去	8,500
全社費用(注)	△287,578
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失(△)	△51,808

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	パッケージ事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,928,888	1,776,631	3,705,519
セグメント間の内部売上高又は振替高	34,917	28,252	63,169
計	1,963,805	1,804,883	3,768,689
セグメント利益又は損失(△)	543,086	△29,765	513,321

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	513,321
セグメント間取引消去	6,844
全社費用(注)	△299,890
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	220,276

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。